

食と健康

を考えるサロン

第13回

演題：

「自然農法について」

～真の健康を得られるのは大自然の
摂理に従った自然農法による
作物を食することである～

講師：自然農法科学技術研究所

自然農法指導士 中野 秀昭 氏

日付：2018/09/16(日) 13:30～15:30

場所：井上内科クリニック デイケアほほえみ

秋の長雨の終わりを告げるような快晴に恵まれ、45名以上の方にお集り頂きました。EMを取り上げるのは2回目。講師の中野さんは、元々農家の生まれ、幼い時から持病があり、それがきっかけで自然栽培に惹かれていったとのこと。それまでは、高校、大学で水耕栽培や慣行農法を研究されており、裏の裏まで知り尽くした人が最後に行きついたのがEM自然農法だった。その理由をお話して頂きました。

自然農法とは、自然界には火素（太陽の光、熱エネルギー）、水素（水をつかさどる月からのエネルギー）、土素（地球奥からのエネルギー）が出ており、これら3つのエネルギーが土に満たされると作物が正常に育つ。土を清浄に保ち人為肥料を入れなければ、土本来の性能が発揮され、自ら肥沃になっていく。

では何故、自然農法が無肥料栽培で作物が育ち収量が得られるのか？それは3つの理由が考えられる。まず1つ目は、空気中に80%存在する窒素と雨が結合して地面に落ちる。それを取り込む為に、窒素固定菌や、土壌中に多量に存在する不可給態リン酸が働いて、初めて植物が窒素を吸収できるようになる。昔から、雨の良く降る年は、稲が良く実ると言われるゆえんがこれだ。

2つ目は、元素転換が起きているからだ。このエネルギーのもとが植物と人間が共通してもつ生体電流だという説があり、作物の成長に大きく影響を与えているという見解がある。

最後の3つ目は、量子力学的見地からの説。農家



が愛情をもって作物栽培するということは、成長を促し、美味しい作物が頂けることになり、見えない肥となっていると考えられている。私の所でも、EM活性液を作る機械に、感謝の言葉を貼り付け、感謝の思いを大切にしている。昔の農家は、牛や馬の力を借りて耕してした時に、家畜の糞が田や畑に落ちるとけがれると教えられ、土地をしっかりと守ってきた。

しかし、慣行化学農法から自然農法に切り換えて安定的な土ができるには3年以上かかる。そこで、自然農法に早く移行する為のEMを活用することだ。

EMは、残留農薬・化学肥料の肥毒の蓄積の除去年数を短くし、土の清浄化（ドブさらい）をしてくれる。その効力は、量子力学の最先端の体現であり重力波のスイッチである。この量子状態から重力波のエネルギーを使って揺らぎとか、うねりとか、スパイラルでエネルギーをとって、生命体とか物体にエネルギーを与えていくとどンドンと土が蘇生して行く。

今、私達の出来る事は、専業農家でも家庭菜園でも、EMで土壌改善した新鮮で安心安全な野菜を作り、また、この乱れた食生活環境から自ら防衛していくしかないと言われました。

中野さんは、講演終了後、ティータイムの間も農家を目指す若い青年からの質問に会場の方と一緒にあってお付き合いを頂き、その後も質問者がしばらく途絶えませんでした。

今回のお菓子のレシピ

- 無農薬 玄米おはぎ <CASA 提供>
- 無農薬玄米、小豆、オーガニックシュガー、塩

